

# フェイスブックの友達の皆様

私の神奈川新聞の掲載 我が人生です 10回ずつまとめて読める サイトです一定の手続きしないと読めませんあくまでも著作権は神奈川新聞さんですのでご承知下さい。掲載回数は 63 回 3ヶ月の予定です。



神奈川新聞から  
お知らせ

神奈川ゆかりの各界の著名人が、自らの道のりを振り返る連載「わが人生」は3月1日から、万葉倶楽部（くらぶ）代表取締役会長の高橋弘（たかはし・ひろし）さんが登場します。

高橋さんは1935年、静岡県生まれ、小田原市在住。岡県立三島南高校を卒業後、父が経営する酒販店勤務を経て、57年にアルプス写真を創業。60年に写真DPE事業の日本ジャンボを設立。97年には万葉倶楽部（本社・小田原市）を開業し、都市型温泉レジャー施設の先駆となります。温泉施設は現在、県内に「横浜みなとみらい 万葉倶楽部」など3カ所、県外にも6カ所と拡大しています。約3カ月の連載では、生まれ育った熱海の思い出、酒販店時代の苦心談、写真業界から温泉施設への大転換の逸話、経営理念に加え、都市開発事業への取り組みなども紹介します。ご期待ください。

わが人生3月1日から

## 高橋弘さん登場

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月15日〔水〕

先勝

©神奈川新聞社 26803号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

# わが人生

11



高校卒業を前に仲間とスキーを楽しむ筆者（左端）＝1954年2月、静岡と山梨の県境にあった竜坂峠スキー場

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

母校の静岡県立三島南高校には電車で通いました。自宅のある熱海から東海道線で三島まで行き、駿豆線（現伊豆箱根鉄道駿豆線）に乗り換えて3駅先の三島二日町で降ります。すると目の前が学校でした（現在は1駅先の大塚駅近くに移動）。当時は熱海から7時46分発で三島まで約20分、三島二日町まで約10分。乗り継ぎの連絡がよければ1時間もかかりません。

同校で電車通学をする生徒の多くは、三島駅で下車し学校まで30分ほど歩いていました。男子生徒たちが下駄をガラゴロ鳴らしていたのを覚えています。電車

賃の節約のためだったのかもしれないですが、私は、学校の目の前まで来られるなら電車を使うほうが断然合理的だと思っていました。

たの多々もありません。同校で電車通学をする生徒の多くは、三島駅で下車し学校まで30分ほど歩いていました。男子生徒たちが下駄をガラゴロ鳴らしていたのを覚えています。電

## ミカン畑作業手伝う

の頃になると山登りが好きになり、登った山の写真を撮ることも増えました。卒業後は、父が経営する店に入ることになっていました。祖父が始めた雑貨店「いわで」は父の代になって「高橋酒店」と改称し、従業員を5人ほど雇って主に酒類の販売をするように

実はそのほかではなく、熱海の仲良しの友人が駿豆線の伊豆仁田駅近くにある県立田方農業高校に通っており、熱海からずっと一緒に通学するのが楽しかったからでもあります。さて、高校生活はあつとつと過ぎていき、卒業の日が近づいてきました。こ

私が一人で買いに行きました。100本ほど買ったように記憶しています。それ以前もわが家には、多少のミカン畑がありました。戦争中は入手できないので、新鮮な果物を求めて都会のお金持ちがわざわざ買いに来ました。

なっていました。卒業の少し前、同県清水市までミカンの苗を買いに行きました。私が高校卒業後店に入ると、自家消費用の水田を耕作する労働力が減るので、その一部を手間のかからないミカン畑にすることにしました。父が調べておいてくれた店に、

風で飛ばされないようにします。ただし1カ所だけ開けておきます。ここから覆いの中に入るのです。根元には硫酸の入った容器をあらかじめ置いておきます。「いいか弘、これは青酸カリといって猛毒だ。覆いの中に入ったら、硫酸の中にこれを入れて、息を止めてすぐに出て来い」

ミカンは実を収穫する1カ月は前になると、害虫がつかないよう、ガスで燻蒸します。まず、液を塗った丈夫な和紙で木を1本ずつすっぽり覆います。木を和紙で覆うときは、先端に布を丸く巻いた竹の棒を使います。覆ったら、和紙の端にぐるりと砂袋を置き、

（たかはし・ひろし）

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月16日〔木〕

友引

©神奈川新聞社 26804号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生  
12  
20



高校卒業を目前に「高橋酒店」(自宅)前で記念写真に納まる筆者  
11954年2月、静岡県熱海市伊豆山

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1954年3月、静岡県立三島南高校の商業科を卒業した私は、同県熱海市で父が経営する「高橋酒店」に入りました。主な仕事は、旅館や個人宅への酒類や醬油などの配達です。入店に備え、高校3年生の1月に運転免許を取りました。

配達に使うのはダイハツの三輪トラックです。ハンドルがT字形で、バイクのようにキックペダルを踏み下ろしてエンジンをかけるのです。この三輪トラックでは、近所のミカン業者さんに頼まれて、市街地の商店に卸すミカンの運搬も手伝いました。

熱海の旅館は山の斜面に

へばりつくように立つ建物が多いので、館内に階段が多いのが特徴です。旅館の前までは三輪トラックで運べても、館内の冷蔵庫に納

て。宴会場は125段の急な階段を下りたところがあり、そこにある業務用の冷蔵庫にビールを入れるまでが私の仕事なのです。

瓶ビールは現在1枚20本ですが、当時は1枚24本でした。しかもプラスチックケースではなく木箱でしたから、重量は合計約34

り返すのは、10代の私にも相当過酷な労働でした。

それでも利益が大きければまだしも、そうではありませんでした。1950〜60年代はビール大瓶1本が120円台で、55年から61年は125円でした。1本125円で計算すると24本で3千円、30箱で9万円

## 過酷なビールの配達

品するにはビールや酒を抱えて階段を上り下りしなければなりません。エレベーターはまだほとんど設置されていませんでした。

例えば私の担当していた親戚の旅館では「ビールをお持ちしました」と裏口で声を掛けると、「ご苦労さま、宴会場に運んでおい

売りました代金の支払いを、当たり前で延期されま

す。旅館にとって酒店と鮮魚店は支払い金額が多いので、これらを先延ばしにしておいて、その間、宿泊客から得る現金収入で経営をやりくりするのです。

しかし、われわれ酒販店も酒問屋に仕入れ代金を支払わなければなりません。問屋は支払いを待ってくれませんから、必死で工面して支払います。当時の酒販店は犠牲的精神で成り立っているような商売でした。

配達の傍ら、私は高校の商業科で学んだ簿記や会計の知識を生かし、帳簿類の記帳を担当しました。個人のお宅への配達では、使う伝票の改善もしました。これについては次回に続きです。

(たかはし・ひろし)

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

3月17日[金]

先負 | 彼岸

©神奈川新聞社 26805号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]

わが人生 13



高橋酒店の前に立つ、店を支えた当時42歳の母スガ子(1954年2月、静岡県熱海市伊豆山)筆者撮影

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1950〜60年代は、旅館や飲食店だけでなく、家庭でも酒類や醤油を配達してもらったことが一般的でした。父が静岡県熱海市で営む高橋酒店に54年に入った

私の一口は、注文取りから始まります。「おはようございます、何かご用はありますか」と、お得意さんにご用聞きをして回るので

1950〜60年代は、旅館や飲食店だけでなく、家庭でも酒類や醤油を配達してもらったことが一般的でした。父が静岡県熱海市で営む高橋酒店に54年に入った

私の一口は、注文取りから始まります。「おはようございます、何かご用はありますか」と、お得意さんにご用聞きをして回るので

1950〜60年代は、旅館や飲食店だけでなく、家庭でも酒類や醤油を配達してもらったことが一般的でした。父が静岡県熱海市で営む高橋酒店に54年に入った

## 旅館の客を記念撮影

個人のお宅だとかこんな返事が返ってきます。「そうですね、今日はお客さまがあるから、ビール1杯もらおうかしら」。その注文を伝票に書き入れます。

私は高校の商業科で学んだ知識を生かし、注文伝票と領収書、請求書がセットになった書式を考案しました。注文を受けた際に相手の名前や注文内容を書き入れると、支払い方法にに応じて領収書か請求書を同時に作成できる仕組みです。後年起業すると私は「小さな

段でビールを運んだあの旅館です。アルバイトの内容は、団体宿泊客の記念写真を撮ってプリントしてお配りすること。当時はこうしたサービスを行う旅館がほかに結構ありました。

真館がよく使われたので、「記憶の読者の方も多いのではないだろうか。入浴後、浴衣に着替えたお客さんが宴会場に集まってくる」と、皆さーん、記念写真を撮ります。こちらに並んでください。」

前列の人と後列の人の顔が重ならないよう「そのメ

こうして何十軒も回って店に戻り、午後は商品を配

達して回ります。代金は、商品と引き換えにその都度払ってくれる家と、いわゆる「つけ」で月末に一括で払う家とがありました。

工夫」を積み重ねて合理化を図りますが、その芽が既に表れていました。

使うカメラは組み立て暗箱と呼ばれた、蛇腹式の大きな木製カメラです。このアルバイトのために購入しました。黒い布をかぶってシャッターを切ります。60年代くらいまでは学校や写

まばたきをする人が出てきてしまうのです。

暗箱をのぞくと、被写体はすりガラスに上下左右逆に映っています。フィルムは1枚ずつのシートフィルム。主にキャビネ判や八つ

切り判で撮影しました。

撮影し終わると機材を素早く片付け、あいさつもそこそこに自宅へ飛んで帰ります。裏庭に建てた暗室付きの作業場で、急いで現像、焼き付けをするのです。

(たかはし・ひろし)

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

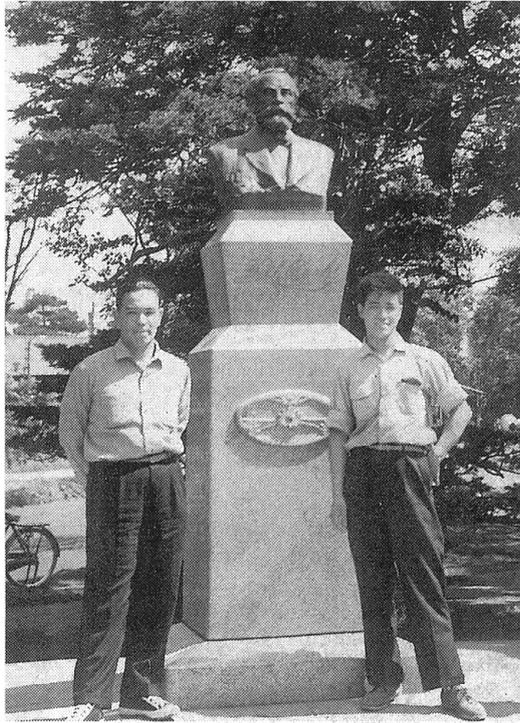
2017年「平成29年」

3月20日〔月〕

春分の日 | 赤口 | 春分

©神奈川新聞社 26808号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わかん生 14



友人と北海道を旅行し、クラーク博士像の前で記念写真に納まる筆者（右）  
11959年ごろ、札幌市の北海道大学

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

高校時代に写真部で培った経験を見込まれ、私は家業の酒販店を手伝う傍ら、親戚が経営する温泉旅館で団体客の記念写真を撮るようになってきました。1950年代半ば、静岡県熱海市で

夕方出向いて宴会前に集合写真を撮影し、急いで自宅に戻ります。裏庭に建てた暗室付きの作業場で、夜なべ仕事の始まりです。シート状のフィルムを現像し、印画紙を一枚ずつ密着させてお客さんの人数分プリントします。サイズは、写っている人が100人以下ならキャビネ判、それ以上なら八つ切り判でした。

依頼する旅館が口コミで増えていきました。

そこで高橋弘の個人ではなく「伊豆山写真」と名乗り、日中は酒販店、夕方からは写真業と二足のわらじを履くようになりました。

高度経済成長を背景に、熱海の観光客は増加の一途でした。後の61年には年間

約9割の9千円。1枚300円の八つ切り判を3000人分なら売り上げは9万円、利益は8万1千円。旅館に謝礼・手数料を30%払っても、5万6700円は手元に残ります。ビールに比べて利益が1桁違いです。私は写真の仕事をもっと増やしたくなりました。

## 写真の副業を拡大

これを一枚ずつ封筒に入れ、翌朝旅館に届けます。すると朝食のお膳に前夜の写真が添えられるというわけです。「君、よく撮れているね」「君こそなかなかだよ」と会話が弾みます。

旅館の撮影サービスを請け負う業者はほかにもいましたが、写真をお客さまに渡すのは翌日のチェックアウト時という業者がほとんどでした。前夜に撮った写真を朝食のお膳に添えられるというので、私に撮影を

の観光客数が日本一になったほどです。企業の招待旅行も盛んで、例えば菓子問屋が、得意先の小売店主らを100人も200人も連れて来ました。

私は3000人の団体を撮影したこともあり、宴会場の舞台上に並び切らず、旅館の屋上上がったもら

相手には値引きをするので、30箱で粗利益はわずかに6300円ほどです。それに対して写真はキャビネ判の代金が1枚100円。1回の撮影で1000人分プリントすれば、たちまち1万円売上げです。経費はフィルム代と印画紙代くらいですから、利益は

約9割の9千円。1枚300円の八つ切り判を3000人分なら売り上げは9万円、利益は8万1千円。旅館に謝礼・手数料を30%払っても、5万6700円は手元に残ります。ビールに比べて利益が1桁違いです。私は写真の仕事をもっと増やしたくなりました。そんな折、団体旅行の添乗でよく来る旅行代理店の社員さんが、旅行関係の業界団体の世話役だと聞きました。幸運なことに、知り合いの旅館関係者が「その人ならよく知っているよ。紹介してあげる」。添乗員は宴会にも立ち会おうので、宴会前に撮影をする私があいさつするタイミングはあります。この人との出会いが、私に大きな美りをもたらすことになりました。（たかはし・ひろし）

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

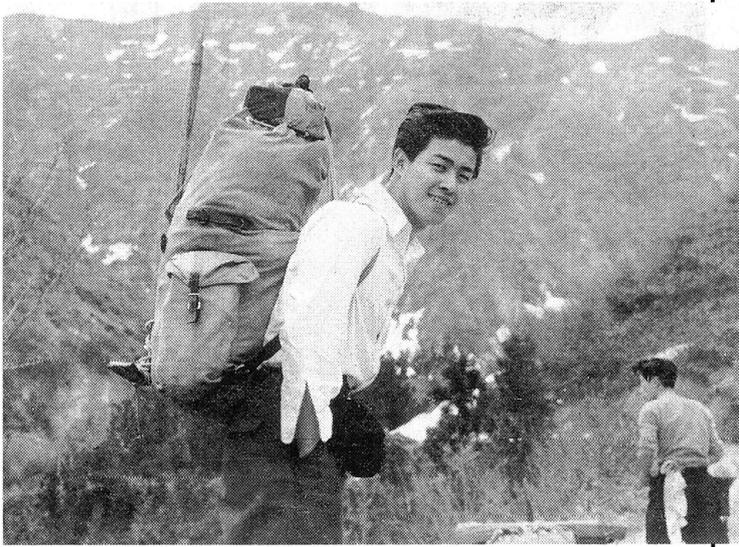
3月21日[火]

先勝

©神奈川新聞社 26809号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]

わが人生  
15



写真業と酒販店の仕事と並行し、登山にも熱中した筆者 =1955年、新潟県

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

家業の酒販店を手伝う傍ら、私は1950年代半ばから「伊豆山写真」を名乗り、静岡県熱海市の温泉旅館で団体客の記念撮影を請け負うようになりました。

そして写真業にもっと力を入れようと、東京の旅行代理店に勤める、ある社員さんを紹介してもらいました。添乗員としてよく熱海に来る人で、千社ほどが所属する業界団体の世話役だと聞いたからです。

「東京で開いているうちの会合に一度来てみたら」と誘ってくれました。早速行ってみると、旅行関連業者が300人くらい集まっています。熱海で写真撮影をやっている高橋といます。熱海での撮影なら、ぜひ私を手配ください」と誘ってくれました。そしてこう続けました。「私が旅行代理店の写真部員として、団体さまの記念撮影をします。夕方撮って、翌朝の朝食時にお配りできます。旅行会社さまには売り上げの30%を謝礼・手数料として支払います」

団体旅行の代金に最初から写真代を含めてもらい、旅行代理店の写真部員として撮影するという形を提案したので、熱海で待つていい。新しいドライブレインを営業したので、ぜひ経路に入れてください」「こういう催しをやるので、ツアーに組み込んでください」

「熱海の海岸沿いを走る国道135号に、朱色の欄干の逢初橋という橋があります。伊豆山神社に身を潜めていた源頼朝と、婚礼を逃げ出してきた北条政子が再会したというロマンチックな伝説が残る橋です。自宅からほど近い、この逢初橋のもとに貸店舗を見つけていました。約23平方メートルで、家賃は月額7千円でした。その賃貸契約を結んだ時

で商業文書の書き方を学んだ22歳の私が、その場で淡々と契約書を作成したところ、大家さんが大変感心してくれました。

「若いのに一人で来て、契約書をすらすら書けるなんて大したものだ」

そして私が実印として三文判を登録して持っていたことを、大家さんはまた褒めてくれました。商売柄いろいろな人のハンコを見てきたけれど、立派なハンコを持っている人に限って成功しないんだ。あんたはなかなか見どころがある。この言葉が頭に残り、私は立派なハンコを使ったことがありません。

店舗の移転を機に、私は店の名を「アルプス写真」に変えました。57年8月のことでした。

(たかはし・ひろし)

## アルプス写真を創業

「私が旅行代理店の写真部員として、団体さまの記念撮影をします。夕方撮って、翌朝の朝食時にお配りできます。旅行会社さまには売り上げの30%を謝礼・手数料として支払います」

団体旅行の代金に最初から写真代を含めてもらい、旅行代理店の写真部員として撮影するという形を提案したので、熱海で待つていい。新しいドライブレインを営業したので、ぜひ経路に入れてください」「こういう催しをやるので、ツアーに組み込んでください」

「熱海の海岸沿いを走る国道135号に、朱色の欄干の逢初橋という橋があります。伊豆山神社に身を潜めていた源頼朝と、婚礼を逃げ出してきた北条政子が再会したというロマンチックな伝説が残る橋です。自宅からほど近い、この逢初橋のもとに貸店舗を見つけていました。約23平方メートルで、家賃は月額7千円でした。その賃貸契約を結んだ時

で商業文書の書き方を学んだ22歳の私が、その場で淡々と契約書を作成したところ、大家さんが大変感心してくれました。

「若いのに一人で来て、契約書をすらすら書けるなんて大したものだ」

そして私が実印として三文判を登録して持っていたことを、大家さんはまた褒めてくれました。商売柄いろいろな人のハンコを見てきたけれど、立派なハンコを持っている人に限って成功しないんだ。あんたはなかなか見どころがある。この言葉が頭に残り、私は立派なハンコを使ったことがありません。

店舗の移転を機に、私は店の名を「アルプス写真」に変えました。57年8月のことでした。

(たかはし・ひろし)

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月22日〔水〕

友引

©神奈川新聞社 26810号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生

16



山岳会「登嶺会」で初めて縦走に参加した19歳の筆者（左）。中ノ岳頂上を背に記念撮影 —1955年4月、新潟県

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

1957年、22歳の私は静岡・熱海の伊豆山に店舗を借り、「アルプス写真」の看板を掲げました。この頃になると旅館の団体客の記念撮影だけでなく、一般の方からのフィルム現像や焼き増しの注文を受けたり、カメラや付属品も販売したりしました。いわゆる街のカメラ屋さんです。

とはいえ昼間は家業の酒販店を手伝わなくてはなりません。そこで、写真に詳しい近所の男性に仕事仲間になってもらいました。昼間は彼に仕事を任せ、私は夕方から入れ替わりに店舗で作業をするのです。従業員も雇いました。

「アルプス写真」と名付けたのは、山が好きだったからです。当時の私は、写真業と同じくらしい情熱を登山に傾けていました。

山に登り始めたのは高校時代、友人に誘われたのがきっかけでした。やがて本格的に取り組みたくなり、「山と深谷」「岳人」といった専門誌の登山愛好会の会員募集コーナーを見て、東京・神田に本拠地を置く「登嶺会」に入りました。19歳の時です。会員は会社員が多く、登山は連休や盆休みを利用しました。私は多い時で年間60日間、山に入っていました。

山に行く時は、新宿や上野駅から午後11時半発くらいの列車に乗り込みます。2等車の座席の下に新聞紙を敷いて寝る「4等寝台」です。背中を伸ばせるのでの夜行列車で6時間かけて上越線の小出駅へ行き、バスで魚沼の大湯温泉へ。ここから登山が始まります。ちなみに上野駅には発車3時間前に行きました。当時は連休前ともなれば、夜行列車のホームは大きなリュックを背負った登山愛好家で大混雑し、並ばなければ

で「総貫約7貫」（約26kg）でした。「高橋君、大丈夫？」と先輩に聞かれ、笑顔で「もちろんです」と答えたものの、内心「早く食事時間にならないかなあ」と思っていました。荷物が少しは減るからです。写真アルバムに私はこう書いています。

## 山岳会で本格的登山

山に登り始めたのは高校時代、友人に誘われたのがきっかけでした。やがて本格的に取り組みたくなり、「山と深谷」「岳人」といった専門誌の登山愛好会の会員募集コーナーを見て、東京・神田に本拠地を置く「登嶺会」に入りました。19歳の時です。会員は会社員が多く、登山は連休や盆休みを利用しました。私は多い時で年間60日間、山に入っていました。

山に行く時は、新宿や上野駅から午後11時半発くらいの列車に乗り込みます。2等車の座席の下に新聞紙を敷いて寝る「4等寝台」です。背中を伸ばせるのでの夜行列車で6時間かけて上越線の小出駅へ行き、バスで魚沼の大湯温泉へ。ここから登山が始まります。ちなみに上野駅には発車3時間前に行きました。当時は連休前ともなれば、夜行列車のホームは大きなリュックを背負った登山愛好家で大混雑し、並ばなければ

乗りにくい状況でした。荷物4人で分担して運びます。私のリュックが一番小さかったので、必然的に重いものが振り分けられました。当時の写真アルバムの添え書きによれば、中身は「ザイル、ジューズ、ナタ、オタマ、キャベツ、ニンジン、ナイフその他」

だ一つも減らない。第一日目であるから特にこたえる。そんな時の休息は下界の何の喜びに値しようか！

4月末というのに雪がたぐさ残っていました。バスが通る道は、雪崩で落ちてきた雪が積もった「デブリ」だらけで、一歩一歩大変緊張しました。登るにつれ、積雪が深くなっていきます。いよいよ雪山に入っていくのです。

（たかはし・ひろし）

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

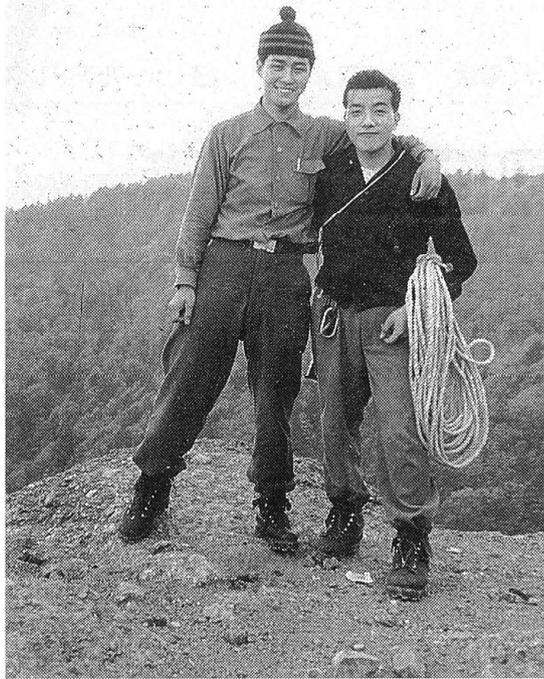
2017年〔平成29年〕

3月23日〔木〕

先負

©神奈川新聞社 26811号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1 力月3189円・1 部120円〕



山岳会「登嶺会」でロッククライミング訓練に取り組む19歳の筆者（左）  
11955年6月、山梨県・三つ峠山

わかん生 17

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋 弘

19歳で東京の山岳会「登嶺会」に入った私は、仕事と並行し、25歳まで本格的な登山に取り組みました。初の縦走は、入会した1955年のゴールデンウィークでした。会の先輩3人とともに新潟県の「越後三山」に挑戦したのです。

山に入って2日目からは、ピッケルやアイゼンを使った雪山登山でした。枝折峠を過ぎ小倉山に入ると、前夜の雪がかなり積もっていました。新雪をかき分け、中ノ岳へと縦走します。さらさら太陽が雪に反射する真っ白な世界。真っ青な空に手が届きそうでした。

八海山へ向かう途中、谷から大きな熊がのそりのそりと上がって来たのには肝を冷やしました。急いでシヤッターを切りましたが、

## 命懸けのザイル登攀

遠すぎてよく写っていないが、残念でした。

この後、越後駒ヶ岳を目標にしたものの天候が急変。30時間以上の激しい風雨に予定を断念し、3日分の食料を7日分のぼして下山しました。

後立山連峰を主な研究対象としていました。私は会の仲間とともに同連峰の鹿島槍ヶ岳北面と五龍岳に積雪期に戦後初登攀し、記録が専門誌に載りました。

鹿島槍ヶ岳北面のときは4人での登攀でした。5月なのに雪がべったり残っており、天狗尾根にベースキヤンプを張って、夜中のうちにカクネ里と呼ばれている谷に下りました。朝になると雪が緩むからです。日の出とともに、2組のペアになり垂直の岩壁を登り始めました。各自40以上のザイル（登山用ロープ）を2本使います。ペアの相棒とは80メートル離れていますか

ら、声が届きません。会話はこだまを利用します。「行、く、ぞ」と叫ぶと、2〜3秒後に「行、く、ぞ」と返ってきます。こだまなら相棒にも聞こえるのです。

私のグループが担当したのは最難関のコースでした。ザイルを体に巻き付けて少しずつ登攀していくと、オーバーハンクにぶち当たりました。ひさしのように突き出ている岩壁です。4人が交代で何度も挑戦しましたが、張り出した裏側に5分もへばりついていると力尽きてしまいま

（たかはし・ひろし）



# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月27日〔月〕

先勝

©神奈川新聞社 26815号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕



「アルプス写真」の後で起業した、「日本ジャンボー」の新社屋  
＝1964年、湯河原町

わが人生

19



万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

家業の酒販店を手伝う傍ら、私は1957年、22歳で静岡県熱海市にカメラ・写真DPE店「アルプス写真」を開業しました。商売は順調で、開業4年目には大きな転機が訪れました。

きっかけは写真業界誌の記事です。「東京・渋谷の地下街に安くて速い写真店が開店し、連日行列ができています」という内容でした。好奇心をそそられ、手元に置いて何度も読み返しました。そして、写真印画紙を仕入れていた三菱製紙代理店の松谷義弘さんが店に来た時、「これはどんな機械を使っているんでしょう」と尋ねてみました。

すると松谷さんは「興味があるのなら見に行くかい？」と、渋谷ではなく、横浜の写真工業社という現像所に連れていってくれまし

た。そこでは3台の大きな機械が、ものすごい速さで写真をプリントしていました。自動で写真を焼き付けると、米国製の機械です。当時の日本では焼き付けは手作業が当たり前で、1人1日200枚がせいぜいでした。ところがこの機械は1時間で1800枚も焼

き付けられるのです。

見に行く時から、私はひそかに「買えるものなら買いたい」と思っていました。実物を見ると「欲しい、手に入れたい」と強烈に思いました。そんな思いが顔に出ていたのか、写真工業社の人が言いました。「うちはおかげさまで受

注が増えたので、より高性能の機械に買い替えるんですよ。よかったら、今使っているこの機械を、1台お譲りしましょうか」「本当ですか！」願ってもない提案に、うれしくて跳び上がりそうになりました。ただし問題は値段です。聞けば、2200

万円とのこと。現在の価値に換算すると4400万円くらいに相当します。

私が用意できる金額は120万円でした。あと100万円足りません。諦め切れず、返事を保留させてもらいました。熱海に戻ってじっくり考えました。あの機械を使う

ならどんな商売をすべきだろうか…。短時間で大量の処理ができる特性を最大限に生かすには、大量の注文を集めることが必要だ。どうやったらそれができる？「…そうだ！注文を受け付ける窓口を、たくさん設ければいいんだ！」お客さまの撮影済みフィ

ルムを預かる取次店を広い範囲に数多く設置し、大量のフィルムを集めてあの高速機械で一括処理するので。私は夢中で事業プランを書き始めました。

「これならいける。大量に処理すれば単価も安くなるから、お客さまも増えていくはずだ」

当時は、注文・受け渡しと現像・焼き付けとを完全に分離している写真DPE店はありませんでした。広範囲から多くの注文を取り、工場での一括大量処理で薄利多売を実現する。後にグループ年商170億円となる「日本ジャンボー」の骨格が生まれた瞬間でした。しかし肝心の機械を買うにはあと100万円足りません。そんな私の前に「救世主」が現れました。（たかはし・ひろし）

## 開業4年目の大転機

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

3月28日〔火〕

先負

©神奈川新聞社 26816号  
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生

20



新規開業の駅ビル地下に設けた直営の取次店。便利で人の多い場所に積極的に出店した  
＝1966年、静岡市内

万葉倶楽部 代表取締役会長

## 高橋弘

写真DPE店「アルプス写真」を営んでいた25歳の私に、1時間で1800枚もプリントできる米国製の大型自動焼き付け機を入手できるチャンスが飛び込んできました。この機械の性能を最大限に生かす事業プランもひらめきました。しかし、220万円の機械を

ね。心配事でもあるの「実は…、と打ち明けたところ、松谷さんは小松支配人と何やら相談し、驚くべき提案をしてくれました。

うという条件で、お金を貸してくれたのです。歯車が音を立て、急速に回り始めました。機械を設置するため、静岡県熱海市伊豆山の自宅近くに土地を借り、バラックですが25坪（約83平方尺）の工場を造りました。そして、アルプス写真のDPE

時以来、現在までずっと続くことになりました。大型自動焼き付け機を使って流れ作業をするための従業員を8人、ほかにも何人か新たに雇い入れ、社長の私も工場で作業や経理、企画などに当たりました。外回りは、専務になった友人が分担してくれました。

もう一つは、お客さまとの窓口を、製品処理の場から分離したことです。それまでは写真店がどちらも行っていました。分離したことで、写真店以外のお店でもお客さまとの受け渡しが可能になりました。

## 日本ジヤンボー始動

「ではうちが、100万円融資しましょう」

後に聞いた話では、松谷さんは私の「何が何でも欲しいという情熱に圧倒された」とか。また三菱製紙は写真印画紙の分野で後発だったため、シエア拡大の目的もあつたのでしょう。今

部門を独立させる形で1960年12月、「日本ジヤンボー株式会社」を設立しました。資本金150万円。私が80万円、残りは友人8人が出資してくれました。

私が立案した日本ジヤンボーの事業プランは、二つの特長がありました。一つは、それまで各写真店が個別に行っていた現像・焼き付けを、大型機械を使い1カ所で集中的に行うこと。生産原価が下がるので、お客さまに低価格で写真を提供できます。

この二つの特長が両輪となつて、日本ジヤンボーの大量処理と低価格、すなわち薄利多売は相乗的に進行していきました。

「この間の機械、すごかったね。あれ、元気がない

後にも三菱製紙の印画紙を使

た。同銀行との縁はこの

たか

（たかはし・ひろし）